



藤原 孟 議員
(政清会)



蝦夷文化考古館以外の博物館には無い上質な漆器等が存在するという。故吉田菊太郎氏が創設した志を町の将来の発展に生かすことが出来ないかという観点から、以下について伺う。

(1) 昨年夏に学術調査のため来館した2人の先生方に、詳しい調査を依頼すべき。元徳島藩蜂須賀家の家紋の付いた「ナガモチ」は、高い評価が指摘され、その伝来の道なども調査すべきでは。

(2) 調査の経費は、クラウドファンディングの活用を。

(3) アイヌ民族の心、精神性を表す「ボンクツ」という女性守り紐が展示されている。何の説明もされていない展示を今後も続けるのか。

(4) 平成5年に展示品の盗難があった。資料目録と実際に所蔵する展示品との間に差異はないのか。

(5) アイヌ新法が5月24日に施行された。アイヌ民族に対する理解への環境が大きく変わる。考古館の在り方も当然変化すべきであり、改修やトイレの早急な改善、建築

問
蝦夷文化考古館にアイヌの人々も宝物とした価値ある品を発見

答
専門機関の助言もいただきながら、収蔵資料の確認作業と調査研究を進めたい

場所や展示方法、ふるさと館との関係などを再検討すべき。

教育長(1) (2) アイヌ民族の先祖が残した収蔵品を陳列し保存するため、白人コタンのアイヌの指導者、故吉田菊太郎氏が建設した資料館を昭和41年に町が寄附を受け、蝦夷文化考古館として管理運営している。

昨年7月、石川県輪島漆芸美術館館長と新潟県上越教育大学大学院学校教育研究科准教授の2人が考古館を訪れ、郷土文化研究員および考古館管理人の立会いの下、2日間にわたり調査研究が行われ、展示されている漆器の中に貴重と思われる物がある旨をお聞きしている。過去に教育委員会が行った調査や発行目録は、アイヌ自ら作成した民具、アイヌ固有の民具に主眼を置いたもので、交易や労働の対価などによりアイヌの手に渡ったものと思われる漆器類については第二義的なものとして詳しい調査を行っていないのが現状

である。今回の2人の先生方による漆器類の再調査までは考えていないが、貴重なアイヌ民具資料として後世に伝えるため、郷土文化研究員等により進めている所蔵品の把握や未整理資料の調査研究と併せて進めるとともに、道内の類似する施設や来年少老町にオープン予定の「国立アイヌ民族博物館」の情報収集に努めたい。

(3) 簡単な説明文のプレートと並べて「ボンクツ」を展示している状況だが、アイヌ民族の精神性を表す貴重な展示品であり、その趣旨も含め、来館者の方により分かりやすい展示を心がけたい。

(4) 平成5年2月16日、考古館の展示品のうち飾り刀の「エムシ」7点、首飾りの「タマサイ」2点など、合計65点の展示品が盗難に遭い、その後犯人は逮捕されたものの盗難された展示品の多くが第三者の手に渡り、判明した9点を買戻した。盗難前に作成した資料目録と実際に存在する展示品にこの分の差異が生じている。



蝦夷文化考古館の展示品

(5) 平成24年6月、町文化財審議会に町指定文化財の保管と活用について諮問し、「両施設については、新設、改修等の早急な対応が必要」との答申があった。この答申を踏まえ「(仮称) 幕別町郷土文化資料館整備等基本構想(案)」を作成した。構想(案)では、ふるさと館と考古館の機能を併せた施設を新築し、建設位置は現考古館敷地としているが、ふるさと館を別の場所、考古館を現在の敷地で新築することも併せて検討するとしている。

現在、郷土文化研究員や郷土文化特別相談員の協力を得ながら、両館の収蔵資料台帳と収蔵資料の確認作業を進めている。これを基に、新たな資料館のコンセプトや適正規模等を考慮した基本構想に向けて、アイヌ民族文化研究センターなどの専門機関から助言をいただきながら調査研究を進めたい。